

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

鳥 取 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鳥取県東伯郡東郷町立東郷中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	8	1 8
生徒数	7 5	7 0	6 3	3	2 1 1	

研究の概要

1. 研究主題

「かかわり合い、主体的に生きる生徒の育成」
わかる授業の工夫と授業改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

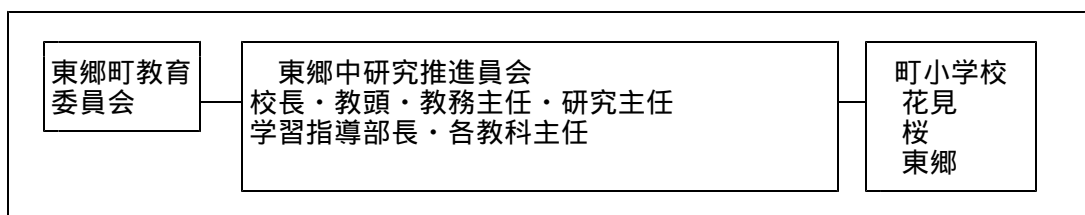
- 1年～3年・数学、1年～3年・英語
- ・生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
 - ・教科としての楽しさを、より認識させたいため。
 - ・全学年取り組むことにより、系統的な指導ができるため。
 - ・家庭学習の継続が、学力向上につながることを理解させるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ 教師の意識改革を図り、授業改善に努める。特に、少人数指導の取り組みを定着させる</p> <p>研究の見通し(仮説) 生徒の学力実態・意欲を基にして「わかる授業」を展開しようとする教師側の授業改善により、生徒の学習活動に対する意欲が高まると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導 特に数学において、 「数学の学習に関する意識調査」を、年3回実施する。この意識調査を基にして、授業改善に取り組み、実践を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラスを、解説コース(基本中心)と演習コース(応用中心)の2つに分け、コースの内容を説明をした上で、生徒自身がコースを選択する。単元終了後に、コース変更をしてもよい。さらに、英語において、基礎基本コースと発展コースに分けて実施する。 <p>校内授業研究会 教師一人一人が授業公開をして個々のレベルアップを図り、その成果を生徒に還元する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の校内授業研究会の実施 <p>自由参観日の継続 今から10年前、保護者の方に、授業はもちろん生活全般を自由に参観してもらうことにより、よりよく東郷中学校教育を理解していただくことをねらいとしてスタートした。現在では、対象をさらに地域全体に広げ、地域とともに生徒を育てる一環として、この参観日を位置づけている。</p> <p>小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習調査 ・共通しての取り組み(あいさつ、掃除、提出物など)
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 教師の教育実践力を向上させ、授業改善を深化させる。特に、少人数指導の取り組みを深め、まとめる。</p> <p>研究の見通し(仮説) 義務教育で身につけさせたい学習の基本的な力や、相手の立場に立って考え行動する心が育ち、その力や心は、生徒が生涯学び続けようとする礎となると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導 数学、英語において 校内授業研究会 自由参観日の継続 小学校との連携</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>少人数指導 数学において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を各生徒に配布し、毎時間の授業に向けての予習を促す。 ・問題数の多いワークを授業中や家庭学習で繰り返し活用する。 <p>[数学の学習に関する意識調査]</p> <p>質問1 少人数になってわかりやすくなりましたか。</p>			
	15年4月	15年9月	15月12月
そう思う	36%	41	45
どちらかというと思う	36	52	47
どちらかというと思わない	27	5	8
思わない	1	2	0
<p>質問2 少人数指導になって関心や意欲は高まりましたか。</p>			
	15年4月	15年9月	15月12月
そう思う	12%	27	24
どちらかというと思う	46	45	58
どちらかというと思わない	24	21	18
思わない	16	5	2
<p>質問3 家庭学習で数学の勉強をしていますか。</p>			
	15年4月	15年9月	15月12月
継続してやっている	20%	33	28
テスト前や特別な日にしていた	58	50	56
ほとんどしていない	17	17	16
全くしない	5	0	0
<p>「家庭学習」が定着すると、「わかる」生徒が増え、「意欲」も高まる。これらは、密接な関係にあるので、これからも重要な要素になると考える。徐々にではあるが、本校の生徒の状況は、よい方向に向っていると思われる。</p> <p>校内授業研究会 月に1回定期的実施することにより、学校全体の取り組みとして定着した。授業公開をすることにより、教師自らが、指導方法を見直す機会が明確になった。その後、研究会を持つことにより、「ノートの取り方を、自分の授業に応用して取り入れてみたい。」「学習規律のよさが、学力向上につながるのではないか。」「発</p>			

問が不適切ではなかったか？」「授業目標が明確でないのでは？」等といった活発な意見が多く出されるようになった。

自由参観日の継続

広く地域全体に公開することにより、開かれた学校づくりの基礎ができた。落ち着いて授業に臨み、給食・掃除活動に取り組む姿を見てもらうことにより、「総合的な学習の時間」等で深まった地域の方々とのつながりが、さらに深まった。「学校のことがもっと知りたい。」「東郷中学校に協力したい。」という声が増えた。

小学校との連携

家庭学習調査を15年1月に実施した結果である。(東郷町内)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	(%)
1時間以内	100	94	61	82	84	64	19	37	10	
1～2時間		6	39	18	15	31	39	21	29	
2～3時間					1	5	8	2	20	
3時間以内							1	0	8	

家庭学習が定着している児童生徒の多くは、基礎学力も身につけていることが分かった。また、提出物についても、中学校になってから提出しない生徒は、小学校の時からもその傾向があり、基礎学力が定着しにくいことも分かった。この調査結果を、15年度の生徒へのかかわりに生かしている。

なお、「あいさつをする」「掃除をまじめにする」等、基本的な生活習慣の身につけている生徒は、学力も身につけやすいことが推測される。

2. 今後の課題

少人数指導

- ・少人数でも学力差が大きくなると、十分な指導ができない。
- ・学習の遅れがちな生徒に、どのように予習を定着させるか。

校内授業研究会

数学科で取り組まれているような、客観的データを基に、自己の授業を振り返り、今以上に指導と評価を一体化する必要がある。そして、より広く公開して、多くの意見を求めるようにする必要がある。

自由参観日

自由参観日の存在を、今まで以上にアピールして、多くの人に来ていただく努力をする必要がある。

小学校との連携

客観的データを基に、小中の問題点を、より明らかにする必要がある。

学力把握のための学校としての取組

教研式学力診断テスト(これから指導する学級集団の学力構造及び個々の生徒に形成された学力の状態を把握するため。1～3年：国語、社会、数学、理科、英語。4月)

各教科で行われる診断テスト(到達度を分析するため。1～3年：数学と理科は4月、英語は12月に実施する。)

鳥取県基礎学力調査(基礎学力の定着と学力向上につなげるため。2年：国語、社会、数学、理科、英語。1月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

フロンティアスクール研究発表会(1月、2月)

校内授業研究会をフロンティアスクール、中部地区全体等に、公開の案内を出し、広く意見を求めたい。(予定)

イントラパケッツを活用したHPを立ち上げて、東郷中学校の教育活動を公開する取り組みを開始したい。(予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	